



# 「学校は、色々な**経験**をさせてくれるところ、五日市高校に来てよかったです！」

## 都立五日市高等学校定時制と地域サークル「音訳ボランティアサークルえくぼ」

あきる野市にある都立五日市高等学校定時制では、地域の「音訳ボランティアサークルえくぼ」の協力を得て、高校生が実際に民話、童話、エッセイなどを録音したテープを作成し、あきる野市内の視覚障害者の方々に差し上げるという奉仕の授業を行っています。

### 外部の方の協力が生み出す効果に期待

この授業を担当している五日市高等学校定時制の竹田主幹教諭は、「外部の方々が実際に授業に入っていただくことは生徒にとって新鮮であるだけでなく、適度な緊張感があり、それが社会性の獲得に大きな効果がある」と話します。

あきる野市社会福祉協議会を通じて紹介された「音訳ボランティアサークルえくぼ」（以下、「えくぼ」という。）は高校の周辺（旧五日市町）で活動している団体です。「この地域に都立高校があることは私たちの誇り、協力することで高校生に喜んでもらいたい」と二つ返事で協力していただけましたそうです。

### まず障害理解から始める

テープの作成までにはいくつかの過程を経なければなりません。まず、事前に視覚障害を理解するために、「はり治療院」に勤めていらっしゃる視覚障害者の方に「目が見えない」ということが実際にどのようなことなのか、を話していただけます。また、盲導犬が、道順を知らせてくれたり、信号機の音で横断の判断をしたり、階段や段差の有無を教えてくれたり、と人間顔負けの役割を果たしていることも初めて知ります。この障害理解の事前学習はテープ制作に向けた大変重要な導入部分となります。

### 朗読テープ制作の隠れた効果

事前学習の後、実際に「えくぼ」の皆さんとテープ制作に入りますが、直ぐに録音をするわけではありません。正しく伝えるために必要な発音や発声、アクセント、速度、滑舌等の練習をします。また、豊かに伝えるために、朗読作品の下調べをしたり、喜怒哀楽を表現する方法を学んだりします。こうした準備をした後に録音に移ります。最初は人前で録音することに照れてしまい失敗が続きますが、次第に真剣になり、互いのテープを聴きあって意見交換をしたりしながら、一人一人のテープが完成していきます。「ここまでの過程が、読解力や表現力、コミュニケーション力、ビジネスマナー等を身につける大きなきっかけになっているところにこのプログラムの隠れた効果があります。」と竹田主幹教諭はおっしゃっています。

### 地域と学校の関係が深くなった！

「えくぼ」の代表を務めていらっしゃる木滑恭子（きなめりやすこ）さんは、「生徒が、回を重ねるうちにだんだんと心を開き、真剣に音訳に取り組む姿に感動しました。また、登校時、町ですれちがった折、私たちに挨拶をしてくれた時、『やってよかった』と心から思いました。」とおっしゃっています。地域と生徒・学校の関係も近くなっています。

### 体験が生徒の達成感と自信に

完成したテープは1月にあきる野市内の高齢者福祉施設（あたご苑）を生徒代表が訪問して手渡します。「ちょっと早口だったけど、感情を上手に入れ、若い力のある声で読んでくれてありがとう。これからも様々なものを読んで聞かせてください。テープを持って生徒さんたちが来てくれることを楽しみにしています。」等感謝の言葉が寄せられました。

生徒からも「一番うれしかったことは、テープを聴いてもらい、頑張ったねと言われたことです。」「『ありがとう』と言われた一言が忘れられません。」という感想が出されています。

また「やっていくうちに、自分のためになるのではと思ってきた」「やればできるんだと、自信が生まれました。」という感想から、「苦労してテープを制作しながら生徒自身が様々な力を獲得したことや他人に感謝された体験が達成感と自信につながっている。」と竹田主幹教諭は言います。

まさに「地域と学校が連携した学びの試み」です。

こんな生徒の感想もありました。

「学校は、色々な経験をさせてくれるところ、五日市高校に来てよかったです！」



視覚障害者の方と盲導犬を講師に招いた事前学習